

令和2年度（2020年度） 信州母子保健推進センターからのお知らせ No.12

年度末のお忙しい中、「コロナ禍における母親支援に関するアンケート調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

今年度最後のセンターからのお知らせでは、「コロナ禍における母親支援に関するアンケート調査」結果の一部を報告します。なお、調査結果については、後日、まとめて報告する予定です。



©長野県アルクマ

……コロナ禍における母親支援に関する アンケート調査……

I 回答市町村数 67市町村 回答率 87.0%（令和3年3月23日時点）

II 妊産婦等（乳幼児の母親や妊娠希望者を含む）から新型コロナウイルス感染症に関する不安を訴える相談の有無

ある 54市町村（80.6%）

妊娠前の相談を受けた市町村はありませんでした。（図1参照）

出産後1年（出産後、乳時期）の相談が約半数を占めています。

ない 13市町村（19.4%）

III 産後のメンタルヘルスについて

○産後うつなどの産後のメンタルヘルスに関する相談の有無

ある 42市町村（62.7%）

ない 25市町村（37.3%）

相談は、本人だけでなく周囲の人からもありました。（図2参照）

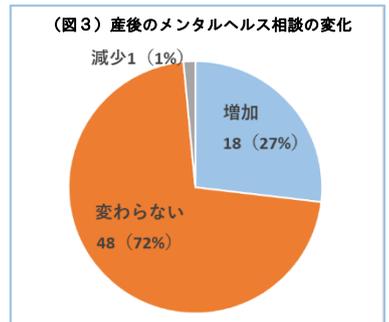
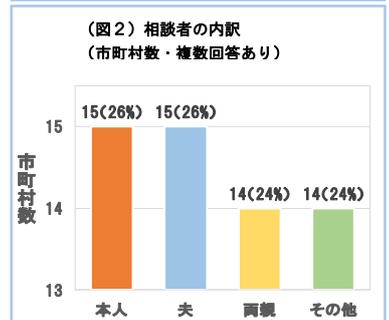
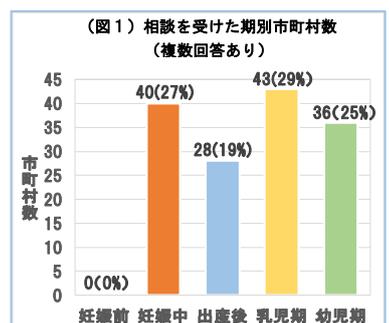
○産後のメンタルヘルスに関する相談件数の変化（保健師の感覚による）

7割の市町村が「相談件数は以前と変わらない」という一方、「増加した」という市町村が3割弱ありました。（図3参照）

IV コロナ禍での母子支援を行う中で、保健師として気がかりなこと、心配なこと、不安に思うことの有無

ある 52市町村（77.6%） ない 15市町村（22.4%）

8割弱の市町村が心配や不安を感じながら支援しています。



ゲートキーパー研修を受講してみませんか

厚生労働省は2020年の自殺者数が前年比4.5%増加しており、特に女性では前年比15.4%増加していると発表しました。新型コロナウイルス感染症の流行が影響しているとしています。

今回のアンケート調査でもコロナ禍で様々な不安を訴える母親がいることがわかりました。

日々の相談や健診の中で思い悩む人に出会うかもしれません。中には、死をほのめかす人もいます。支えあいの輪が広がるよう、母子保健を担う皆さんもゲートキーパー養成研修の受講をお願いします。在宅で健診等のお手伝いをいただいている方々の参加についてもご配慮ください。

県では、市町村職員向けのゲートキーパー研修動画を令和3年9月末までYouTubeで限定公開しています。自殺をほのめかされた時の対応についても触れています。是非ご視聴をお願いします。

<https://www.youtube.com/watch?v=9yGQB4EG-bE&list=PLKnAdh-WHOHgOkfy-dadk5-A7TIIVHR9S&index=1>

……こんな相談がありました。こんな対応しました。……

アンケートには多種多様な相談内容、それに対する対応が寄せられました。その中から紹介します。



コロナの影響で、立ち会い分娩もできなかつたし、入院中、誰とも会えなかつた。
こんなはずじゃなかつたのに……

- ・傾聴し、気持ちを受け止めた。新生児訪問でつらい気持ちを受け止めた。
- ・面会できないメリットとデメリットについて話し合った。その結果、「赤ちゃんだけに向き合えた」「時間を自由に使い面会のことは気にせず、ゆっくり睡眠がとれた」とプラス面を言葉にされていた。
- ・面会はできなかつたが毎日リモート面会ができたこと、携帯電話で話げできたことなどポジティブフィードバックを行った。
- ・訴えのある人には、早めの訪問やこまめな電話相談を行った。



Point

母親は不安が強く、必要な行動がとれなくなってしまうですね。正しい行動を指導するだけでなく、母親の不安を受け止めたうえで正しい知識を伝え、必要な行動が安心してできるといいですね。



コロナの感染が心配で乳幼児健診や育児相談を受けたくない。

- ・健診の必要性、感染対策について説明した。
- ・健診補助券を利用して個別での医療機関受診を勧めた。
- ・感染対策を説明した上で、心配であれば次回健診に延期できることを提案した。



予防接種も病院で感染しそうで、予防接種でデビューできない。
接種の時期だが、医療機関に行くのをためらってしまう。

- ・予防接種は不要不急ではないこと、予防接種の重要性、医療機関の感染対策を説明した。
- ・不安を傾聴・共感し、感染が気になる時期だからこそ、遅らせずに受けてほしいことを説明した。
- ・予防接種のタイミングや医療機関への偏見について母の不安感に寄り添って説明した。
- ・予防接種の必要性や国の方針について説明した。



Point

子どもへの関わり方の相談ですが、母親のイライラの強さやうつの傾向はどうか？
虐待予防や自殺予防の視点も踏まえた支援をお願いします。



どこにも出かけられず、家にいるのでイライラしてしまう。息も詰まるし、
子どものことを怒ることが増え、気分が滅入っていやになってしまう。

- ・定期的に電話相談を行い、訴えを傾聴した。来所しての相談もできることを説明した。
- ・母親の頑張りを労い、子育て支援センターの利用、乳幼児の教室や心理相談・ペアレントトレーニングを紹介した。



引きこもり生活が続き、子どもがかわいそう。子どもへの影響が心配。
子どもと外出したいが、世間は感染対策でピリピリしているので外出できない。

- ・感染対策を行った上での外遊びや子育て支援センターの利用等を紹介した。
- ・母親を労い、家での過ごし方や遊び方、父親の育児参加へのアドバイスをした。
- ・県の感染警戒レベルを見たとうえで教室の再開を判断し、参加を勧めた。
- ・子どもができる感染対策（入店前の手指消毒、マスクの装着など）を一緒に考えた。

来年度もタイムリーな情報共有・情報提供をめざし、センターからのお知らせの発行を続けたいと思いますのでご活用ください。ご意見・感想もお寄せください。よろしくお願いいたします。

<連絡先>◎信州母子保健推進センター 県保健・疾病対策課 直通電話 026 (235) 7141

担当地域 (保健福祉事務所)	母子保健推進員	配置場所・連絡先
佐久・上田・長野・北信・長野市	小山	保健・疾病対策課 026 (235) 7141
諏訪・伊那・飯田	吉田	飯田保健福祉事務所 0265 (53) 0444
木曾・松本・大町	傳田 (でんだ)	松本保健福祉事務所 0263 (40) 1937